

(仮称) 動物愛護センターの機能等について

◆ 施設の機能

「動物の愛護及び管理に関する法律」において規定する、動物の虐待及び遺棄の防止、動物の適正な取扱い、その他動物の健康及び安全の保持等、動物を愛護する気風を招来し、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵養に資する事業等を行うとともに、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害、生活環境を保全するうえでの支障を防止するなど、人と動物とが共生する社会の実現を目指す、動物の愛護と管理の拠点施設として整備するものである。具体的には、次に掲げる機能を担い、本市における動物の愛護管理行政施策を推進する。

1 犬・猫の適正な飼い方を啓発する機能

- 飼い主の責務やマナーの喚起
 - ・ 終生飼養やフンの持ち帰り等
- 犬や猫の正しい飼い方や接し方の普及啓発
 - ・ しつけ方教室や責任ある餌のやり方
- ペットショップ等の動物取扱業者への指導と連携した啓発
 - ・ 動物取扱責任者研修会や連携した啓発等

2 犬・猫の殺処分を極力減らす機能

- 収容や引取りの頭数を減らす
 - ・ 終生飼養や適正な飼養と管理等
- 譲渡の促進
 - ・ 収容犬猫の適正管理やしつけの助言等

3 犬・猫とのふれあいの場を提供する機能

- 犬や猫とふれあえる場の提供
 - ・ 動物のぬくもりや命の大切さを感じる
- 学校や高齢者・障がい者施設等と連携した教育、癒しの場の提供
 - ・ 思いやりの心を育てる、アニマルセラピー等

4 放浪犬等を保護収容・管理する機能

- 健康管理と必要な治療の提供
- 犬・猫に極力苦痛を与えない方法による殺処分

5 狂犬病等の感染症予防対策機能

- 狂犬病予防注射の実施率向上に向けた普及啓発
- 人獣共通感染症に係る情報提供

6 動物関係ボランティア、団体との連携

- 動物愛護管理ボランティアの育成
- 獣医師会や動物愛護団体等との連携

7 災害時における対応機能

- 放浪動物（犬猫等）等の保護収容

◆ 施設の構成

これらの施設機能を実現するため、必要となる施設は次のとおりとなる。

1 収容直後の犬・猫を管理する部門（保護管理部門）

保護収容した犬や猫の健康状態を確認後、疾病の有無や人への順化等を観察し、譲渡適性を判断する。

- 受入室
保護した犬や猫のトリアージを行う。状況に応じて車寄せを付帯する。
- 健康管理室
収容直後に診察、必要に応じて手当て等の処置を行う。経過観察時における処置や手当て等も行う。
- 犬猫飼育室
犬や猫を収容し、健康状態や人への順化の経過を観察する。
- 隔離室
感染症等に罹患している犬や猫を隔離し、経過観察や処置等を行う。
- 処分・焼却室
人への順化が見込めない状態、治癒の見込みがない重篤な状態、交通事故等により瀕死の状態にある犬や猫の安楽殺及び焼却、収容中に死亡してしまった犬猫の焼却を行う。

2 譲渡適性があると判断した犬・猫を管理する部門（愛護・啓発部門）

経過観察後、譲渡適性があると判断した犬や猫を譲渡する。また、状況に応じ、人とのふれあいも行う。

- 犬猫飼育室
譲渡候補の犬や猫を飼育する。
- グルーミング室
犬等のシャンプーやカットを行い、魅力度の向上と健康管理を行う。
- 譲渡室
犬や猫の新たな飼い主への譲渡に当たり、飼い主と動物の相性確認等を行う。また、犬や猫とのふれあいを行う場ともなる。

3 動物の適正管理と愛護啓発を行う部門（啓発部門）

動物愛護管理法や狂犬病予防法等に基づき、適正な動物の管理と愛護の普及啓発を行う。

○ 事務室

動物愛護管理施策を推進する事務スペース。動物に関する各種相談や申請等窓口業務も行う。施設運営ボランティアとの協働を念頭にしたものとする。

○ 研修室

各種講習会や研修会を行う。

4 動物を収容・飼育するうえで必要なもの

○ 犬運動場

収容している犬の健康を管理するための運動スペース。人と犬とのふれあいの場としても活用する。

○ 飼料室

エサの保管や調整等を行う。

○ ボランティア室

動物の管理等を行う運営ボランティアの作業等のスペース。事務室との密な連携を念頭に置いたものとする。

○ 倉庫

ケージや捕獲箱等の資器材を保管する。

5 施設管理上必要なもの

○ おやこ室

授乳やオムツ交換等を行う。

○ 便所

男女、多目的

○ エントランス、通路

情報発信コーナー等の付帯を念頭に置く。

○ 更衣・シャワー室

○ 委託業者事務室

○ 風除室

○ 電気・機械室

○ 衛生設備（上下水道、浄化槽）

○ 駐車場